

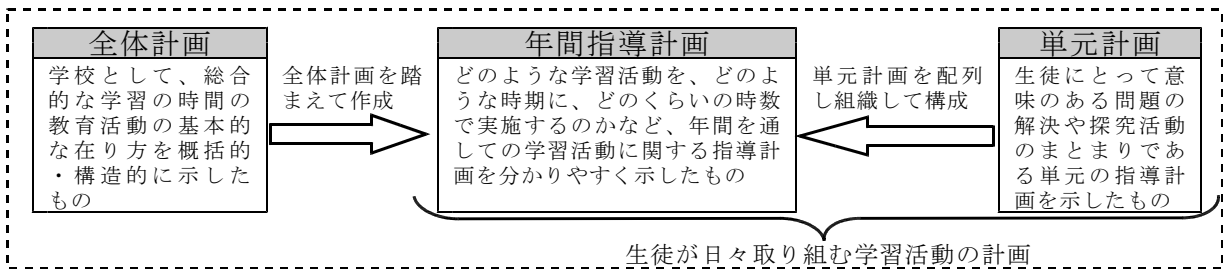
総合的な学習の時間

1 総合的な学習の時間における年間指導計画

(1) 年間指導計画の位置付け

総合的な学習の時間が実効性があるものとして実施されるためには、地域や学校、生徒の実態や特性を踏まえ、各教科・科目等を視野に入れた全体計画及び年間指導計画を作成することが必要である。

全体計画については、「平成23年度高等学校教育課程編成実施の手引」で例を示しているが、全体計画と年間指導計画及び単元計画における学習活動については、次のように整理することができる。



(2) 年間指導計画の作成

ア 1年間の生徒の成長をとらえて、学習活動が連続するように設定し、時間の流れを追って学習活動を構想して、その学習活動における生徒の具体的な姿を考えながら年間指導計画を立てることが重要である。

イ 年間指導計画に盛り込まれる主たる要素としては、単元名、各単元における主な学習活動、活動時期、予定時数などが考えられるが、学校が実施する教育活動の特質に応じて必要な要素を加え、この時間の学習活動が一層豊かなものとなるよう、創意工夫を生かして作成することが望まれる。

(3) 作成に当たっての留意点

年間指導計画の作成に当たっては、次の点に留意することが大切である。

- ア 生徒の実態や特性を踏まえること
～当該学年までの学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握すること。
- イ 十分な見通しをもった周到な計画にすること
～卒業までを見通して、単位の履修と修得ができるよう、綿密な計画を立てること。
- ウ 実社会との接点を生み出すこと
～日常生活や社会とのかかわりを重視した学習を展開すること。
- エ 各教科・科目、特別活動との関連を図ること
～各教科・科目、特別活動の互いの違いを十分に理解した上で、関連を図ること
- オ 学年間の関連を見通すこと
～第1学年から最終学年までを見通し、学習の質的な高まりや段階的な積み上げがあるか、単元と単元のつながりや連続性があるか、などを検討すること。
- カ 弾力的な運用に耐えうる柔軟性をもつこと
～目の前の生徒の実態に応じて計画の適切さを検討し直し、実施に移していくこと。
- キ 外部の教育資源の活用及び社会参画を意識すること
～保護者や地域の人、研究者や専門家などの多様な人々の協力、社会教育施設や社会教育団体等の施設・設備など、様々な教育資源を活用すること。

2 総合的な学習の時間における評価

総合的な学習の時間では、各学校が定めた目標及び内容を踏まえて、生徒にどのような力がどの程度身に付いたのかを明確にするために、適切な評価をすることが必要である。

(1) 学習状況の評価の基本的な考え方

総合的な学習の時間の評価では、次のような評価の機能があり、各学校においては目標や内容に従って評価の観点を適切に定めることが大切である。その上で、どのような力が身に付いたのかを適切に把握するため、生徒の学習の姿を基にした評価規準を設定することが必要である。

＜評価の機能＞			
①生徒の学習状況について説明・証明する機能	②生徒の学習をよりよく改善・促進する機能	③生徒の自己評価能力を育成する機能	④教師の学習指導や学校の指導計画を吟味し改善する機能

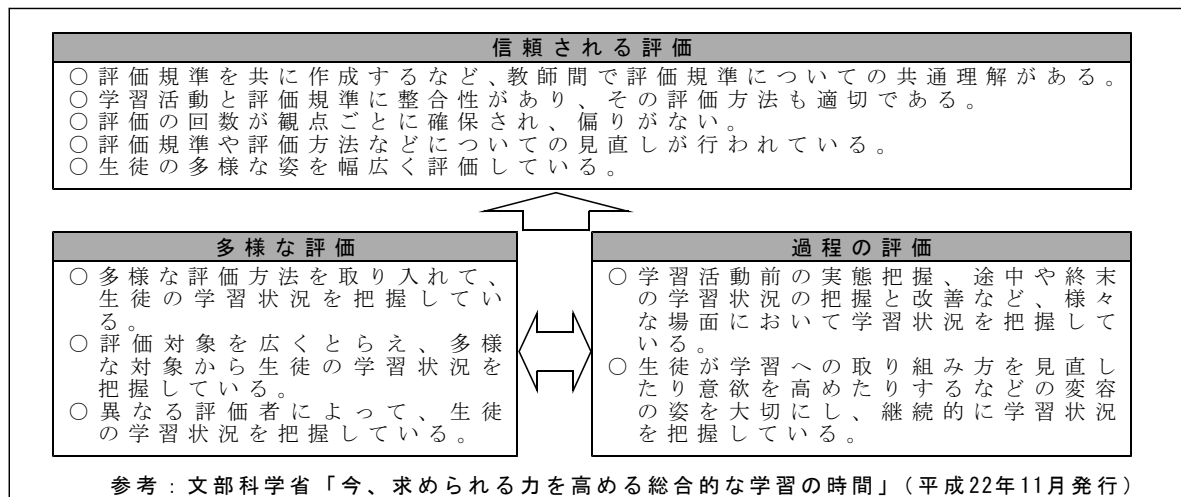
(2) 学習状況の評価の方法

総合的な学習の時間における生徒の具体的な学習状況の評価に当たっては、ペーパーテストなどの評価の方法によって数値的に評価することは適当ではなく、次の3つの点に留意することが重要である。

ア 信頼される評価

信頼される評価とするためには、教師の適切な判断に基づいた評価が必要であり、著しく異なったり偏ったりすることなく、およそどの教師も同じように判断できる評価が求められる。そのため、次に示すように、多様な評価と過程の評価を意識して行うことが重要である。

イ 多様な評価



多様な評価とするためには、次のように、異なる評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせることが重要である。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価 ② 学習や活動の状況などの観察記録による評価 ③ 論文、レポート、ワークシート、ノートなどの製作物による評価 ④ 学習活動の過程や成果などの記録や作品などを計画的に集積したポートフォリオによる評価 ⑤ 課題設定や課題解決能力をみるような記述テストの結果による評価 ⑥ 一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動することによるパフォーマンス評価 ⑦ 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価 ⑧ 保護者や地域の人々等による第三者評価 |
|--|

ウ 過程の評価

学習状況の過程を評価するためには、評価を学習活動のまとめだけではなく、事前や途中で適切に位置付けて実施することが大切である。

3 年間学習指導計画作成と評価の実践例

総合的な学習の時間において、年間指導計画を作成し多様な方法で評価を行っている実践例を次に示す（「主な評価方法」の丸数字は前ページの多様な評価の方法の例①～⑧による。）。

<テーマ「地域の森・川・海から地球環境を学ぶ」> 本校では、総合的な学習の時間において、「森、川、海」の自然に恵まれた地域を教材として、環境教育を実践している。 各学年のテーマに沿って、生徒自らが課題を見付け、身近な自然環境の観察・調査や、その学習成果の発表などの活動を通して、考察する力や表現力の育成を図るとともに、よりよい環境づくりを目指して主体的に考え行動する態度を養うことをねらいとしている。					
【1学年】 1 年間目標 地球環境や地域の自然環境について、興味や関心を高め、環境についての基本的な知識を習得する。 2 年間指導計画					
学期	月	単元（時数）	主な学習活動	指導上の留意事項	主な評価方法
前期	4	オリエンテーション（1時間）	○学習のねらいと学習内容の説明	・昨年度の発表資料等を提示しながら、生徒が自ら課題意識を持ち、主体的に体験活動に取り組めるよう指導する。	②
		環境講座（3時間）	○地球環境問題について理解するとともに、環境問題に係る意見等をレポートにまとめる。	・体験活動の事前学習として、仮説を立てさせ、実際の結果との「ずれ」に気付きやすくする。	② ③
	5	植樹活動（2時間）	○事前学習を踏まえながら、植樹活動を通して、森林が周囲の環境に与える影響について考察する。	・活動のねらいを明確にしなが、環境保全の重要性について認識を高めさせるよう指導する。	① ② ⑥
	6	今、私たちができること（5時間）	○ビニール袋の使用量から環境への配慮を検証し、布製のエコバックの作成を通じて、今自分たちができる環境保全に向けた活動を実践する。	・家庭科と連携しながら、実生活の中で継続した環境保全の取組となるよう生徒に意識付ける。	① ② ③
【2学年】 1 年間目標 自然環境の調査・分析を通して、人と環境の関わりを学び、課題を探究する能力を養う。 2 年間指導計画					
学期	月	単元（時数）	主な学習活動	指導上の留意事項	主な評価方法
前期	7	川の成り立ち（2時間）	○近隣河川の現状を踏まえながら、地域における河川の役割について理解するとともに、人と環境のつながりについて考察する。	・環境保全の重要性を認識させた上で、気付きや発見、疑問に思ったことをその場ですぐに記録するよう指導する。	① ② ③
		8	河川調査実習（5時間）	○実際の水質調査や水生生物の採取・観察を通して、河川の環境改善への課題意識を醸成するとともに、課題解決に向けた方策について考察する。	・測定については、測定の目的を明確にさせる。 ・調査では、仮説、調査内容や方法、調査結果、考察の記録の中で、方法や結果を図に示して分かりやすく整理させる。 ・必要に応じてカメラやビデオカメラなどのICTを活用させる。
後期	12	施設見学（1時間）	○浄化センターやリサイクル施設の見学を通して、実生活における汚染水やゴミの処理工程や再利用の必要性について理解する。	・気付きや発見、疑問に思ったことをその場ですぐに記録するよう指導する。	② ③

【3学年】

- 1 年間目標
課題を探究する学習を通して、よりよい環境づくりを目指して主体的に考え行動する態度を養う。
- 2 年間指導計画

学期	月	単元（時数）	主な学習活動	指導上の留意事項	主な評価方法
後期	10	課題探究学習（2時間）	○歴史コース 郷土資料館で郷土史の基本的事項を理解した上で、炭坑跡地を見学する。 ○生活コース 調査した地元の食材を利用した調理計画を立て、調理実習を実施する。	・郷土資料館の見学や地元食材の調査については、単元の題材となる課題づくりのきっかけとなるよう指導する。 ・必要に応じてパソコンやカメラ、ビデオカメラなどのICTを活用させる。	② ③
	11	環境基礎（3時間）	○地歴公民科、数学科、理科が連携し、地球環境問題や自然界の2次曲線についての講義、エコカラム作成の実習を実施する。	・各教科からの視点で環境に関する知識を深めるとともに、多面的多角的に考察する力を身に付けさせる。	② ③ ⑤

	12	まとめ（4時間）	○研究成果発表会に向け、1年間の研究の成果などをまとめたプレゼンテーションシートを作成する。	・テーマの設定の理由、調査方法、調査結果、探究の過程や、統計資料から分かること、疑問点、今後の課題について、明確な視点を持って自分の考えを分かりやすく発表できるようまとめさせる。 ・調査で記録した資料や写真を、ICTを活用してまとめるよう指導する。	① ③ ④
	1	研究成果発表会（2時間）	○すべての班が学年発表会で研究成果を発表した後、学年で選ばれた5班が、全体発表会で全生徒や保護者、地域の人々の前で発表する。	・生徒同士お互いの発表を評価させる。	⑥ ⑦ ⑧
	1	振り返り（1時間）	○課題探究学習及び研究成果発表会の振り返りを行う。		⑦

評価規準

【技能】

研究成果の発表において、視覚に訴える資料を提示し、聞き手に応じて分かりやすく理論的に発表している。

「研究成果発表会」評価シート

A: 良くできた B: できた
C: もう少し D: 努力が必要

氏名	班	声の大きさ	説明の内容	プレゼンの完成度	総合評価	コメント（良かった点など）
	1班	B	D	C	C	炭坑見学など取り上げてない活動があった。
	2班	C	B	A	B	プレゼンシートはシンプルで見やすかった。
	3班	B	A	B	B	説明が詳しくて分かりやすかった。
	4班	A	B	A	A	写真で文字を作ったところが新しかった。

評価規準

【関心・意欲・態度】

生徒自身が自分のよい点や進歩の状況などに気付き、今回の学習を基に、次の学習に対する関心が高まっている。

「課題探究学習」自己評価シート

A: 良くできた B: できた
C: もう少し D: もっと努力が必要

課題探究の過程や自分の考えなどを分かりやすく発表しよう。	評価
1 目的を持って学習することができた。	
2 班員と協力して学習を進めることができた。	
3 テーマに基づいた方法で調査することができた。	
4 調査結果、探究の過程を整理することができた。	
5 疑問点、今後の対策について、明確な視点を持って自分の考え方を整理し書くことができた。	
6 調査で記録した資料や写真を活用してまとめることができた。	
7 発表の方法を班員と協力して考え、作成することができた。	
8 学習を通して得た考えなどを分かりやすく発表することができた。	
振り返り ※1年間の学習を振り返って、自分の変化や次の学習に向けて感じていることを記載しなさい。	
先生から	

Topic

総合的な学習の時間における体験活動

総合的な学習の時間においては、従前と同様に体験活動を行うことを重視し、積極的に学習活動に取り入れることとしている。

しかし、体験活動がそれだけで終わるのではなく、体験活動を行うことによって生徒の学習を一層充実したものとするのが重要であり、そのためには問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることが必要である。体験活動を行うに当たっては、次の4点に留意することが重要である。

①設定した課題に迫り、課題の解決につながる体験活動であること。

②生徒が主体的に取り組むことのできる体験活動であること。

③年間を見通した適切な時数の範囲で行われる体験活動であること。

④生徒の安全に対して、十分に配慮した体験活動であること。